

第11回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成26年7月14日(月) 13:00~17:00

場所:Jヴィレッジ(福島県双葉郡檜葉町)

2. メンバー

政府: (議長):赤羽原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省:中津水産庁研究指導課長

国土交通省:渥美河川環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、

江口対策官、豊口企画官、三木アドバイザー

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、遠藤調整官、

有賀対策官、岡山対策官

東京電力:石崎福島復興本社代表、新妻福島復興本社副代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデント、岩城福島第一原子力発電所副所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山本審議官、小坂地域統括管理官

関係機関:鳥居特任参与 独立行政法人日本原子力研究開発機構

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○夏の季節を迎えて、日々の作業現場は厳しさを増している。ますます作業環境と労働環境への配慮が不可欠。手厚い状況把握、適切な工程管理等により万全を期して改善対策に臨んで頂きたい。

○タンクエリアの堰のかさ上げ、二重化に関して、既設タンクエリアの堰については、内堰・外周堰の設置、内堰・外周堰内部の浸透防止工事を全て終了し、全体としてもほぼ完了したものと認識。今後も続く雨の季節に効果を発揮することを期待する。

○また、今回から、しっかりと工程管理を行うために管理表の見直しを行っている。具体的には、①多核種処理装置(ALPS)の運転状況と増設ALPS・高性能多核種除去装置の設置、②海水配管トレンチ内の汚染水除去、③土壌中のストロンチウム捕集、④陸側遮

水壁（凍土壁）、⑤敷地内のフェーシング、⑥海洋の常時モニタリング設備の設置の6項目を新規に追加しており、これらについても本日もご議論いただきたい。

○タンク設置に関しては、引き続き遅延の状況が続いており、綿密な議論と工程管理により関係各所全体で取り組むことが求められている。タンク容量と汚染水量のバランスは、タンク増設のみならず、地下水流入抑制策やALPS処理などの汚染水対策全体に関係する問題なので、本日も、タンク新設計画、スケジュール等に関する報告を受けて十分にご議論いただきたい。

○海側トレンチからの汚染水の除去については、その前提となる凍結止水が進んでいないことが懸念されていることから、本日はトレンチ止水の状況の報告とともに今後の対策についてご議論いただきたい。一部、トレンチの凍結止水が進まないために凍土壁も難航しているという報道があるが、トレンチ止水と凍土壁は別の対策であり、扱っている現象も異なる。凍土壁の進捗についても本日も報告いただくが、その違いについては適切に説明いただくようお願いしたい。

○本日も、活発な御意見をいただき、徹底した議論をお願いしたい。

(2)会議概要(主な指摘事項)

議題1

<資料1>

- 地下水の流入抑制について、地下水バイパスの効果がいきちんとでてきているのか、県民にわかりやすく情報提供をして欲しい。

議題2

<資料2>

- ALPSの本格運転の定義はなにか明確にし、その本格運転までのガントチャートを作成して詳細な工程管理をしてほしい。
- トレンチ内凍結は、実証実験ではうまくいっていたのに実地ではうまくいっていないため、その違いなどを分析評価すべき。県民は、トレンチ内に高濃度の汚染水が滞留していることに不安や懸念が生じる。内側だけでなく外側からの凍結も検討するなど多面的な手法を考えて欲しい。
- トレンチ凍結については、冷凍機の入口と出口の温度差が2℃しかないが、これは言い

替えれば2℃分の冷凍能力しか土壤に伝導できていないことになる。冷凍機の能力アップだけでなくパッカーの熱伝導性も検証すべき。

- ▶ フェーシング工事にあたっては、フェーシングによって表流水が増えるので、フェーシングと同時に、排水路の工事計画も工程管理すべき。
- ▶ タンク計画については評価方法を見直したことは評価する。ただし、8月が厳しい状況には変わりがないので、タンク設置を計画通りに進めていくことが重要。また、今後はALPS処理や地下水流入抑制策が重要になってくるので、それらもしっかり工程管理すべき。

(3)次回以降の日程

○次回は8月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)